

長谷川恒男記念庫



Ultrar II 峰
遺品コーナー

長谷川恒男考案の
Climbing Gear

長谷川恒男 愛用品

書籍・出版物コーナー

ピオレドールアジア/
金のピッケル展示!

数々の登攀をふり返る
パネル展示

長谷川恒男記念庫 開設のお知らせ

5月2日(土)・3日(日)の
2日間のみ、
長谷川昌美が記念庫に
滞在します。

- 所在地 〒391-0011 長野県茅野市玉川11400-664 太陽館内
- オープン 2015年5月2日(土)午前10時
- 公開日 毎週 土曜・日曜 午前10時～午後4時
(10月末まで、冬期は休み)
- 入庫 無料
- 要予約 TEL. 090-8726-6719
(有)武藤プロダクション 武藤 昭
- お問い合わせ 〒151-0061 東京都渋谷区初台2-26-1-401
アルパインガイド長谷川事務所
TEL.03-3370-8522 FAX.03-3320-0398
E-mail: masami-h@za2.so-net.ne.jp



車: 中央自動車道 諏訪南IC
ズームライン→鉢巻道路・左折
→学林→太陽館(約9km:12分)

公共交通機関: JR中央本線 茅野駅
アルピコ交通: 美濃戸線
茅野駅→太陽館前(約33分)

ご挨拶

アルピニスト・長谷川恒男が、パキスタン、フンザにあるウルタルII峰(7,388m)で雪崩により遭難死したのは、1991年10月10日のことでした。

当時未踏のウルタル峰へは、前年1990年に試登し7,000m付近まで至りましたが、悪天候や登山期間の期限切れで帰国。

翌年は若手の隊員も仲間に加えてルートを伸ばし、頂上を間近に感じた矢先に雪崩に遭遇、43歳の生涯を終えました。

今は、ウルタル峰のピークが見えるベースキャンプの墓で眠っています。また麓の村カリマバードには、「Hasegawa Memorial Public School & College」を創設、男女共学、英語による教育が行なわれています。

長谷川恒男死後、命日の10月10日前後、「日本山岳耐久レース、長谷川恒男CUP」が東京奥多摩の山々で開催されてからは、トレイルランニングの「ハセツネ」という名称が著名になりました。

アルピニスト・長谷川恒男を知らない「ハセツネ」ファンや参加者がいたこともあり、死後20年に際し、レースのコース上(第三関門、長尾平)に御嶽神社の許可を得て、長谷川恒男記念碑を設置しました。

長谷川恒男は、ヨーロッパアルプス三大北壁といわれるマッターホルン、アイガー、グランドジョラスの北壁を冬期に単独で登り、南米大陸最高峰アコンカグア南壁冬期単独初登攀、その後は、ダウラギリ、ナンガパルバット、チョモランマ(中国側から)など、ヒマラヤの8,000m峰登山を続けました。

こうした中で使用した登山道具の中には、自らが考案したものもあり、登山靴、ピッケル、ウェア、テントなどが残されています。写真を含めてこうした遺品を収納する記念庫を、このたび八ヶ岳の登山口、美濃戸の「太陽館」内に作りました。

八ヶ岳は十代の頃の長谷川恒男が人生で初めて経験した冬山でした。アルパインガイドという職業に就いてからは、講習生を伴い、八ヶ岳には頻繁に、登山やアイスクライミングをしに訪れました。

道具は使ってこそ活かすことができますが、主なき遺品の終焉の地を、八ヶ岳に作れましたこと、関係者すべての方々のご協力の賜物と、深謝申し上げます。みなさまの御来庫をお待ち申し上げます。

2015年 4月吉日

長谷川昌美

